

## ～総括として～

項目	内容
再エネポテンシャルについて	<p>区域施策編の中で、再エネポテンシャルの数字の大小もとに資源量を計っている計画が多い。</p> <p>これはあまり良い方法ではなく、風況が良いところは風力が大きい、面積が大きければ太陽光のポテンシャルがあることになる。実態として、そこまでできるわけがない。数字が小さくても確実にできそうなものに取り組んでいく。木質、糞尿、廃棄物系のポテンシャルの数字が小さく、あまり意味が無いと感じるかもしれないが、こういったところから始めることで市民にとっては見えやすいし、良いことかもしれない。数値の資源量に振り回されずに、地域の再エネを北海道全体としてあるものをすべて使わないといけない。ひとつのエネルギーに固執せず、多様な再エネのサプライチェーンを考えていく。</p>
家畜ふん尿によるバイオマスについて	<p>家畜糞尿バイオマスに関して、発電のためのプラントはうまくいかない。もともとは糞尿の適正処理のためのもの。糞尿の処理費を負担しても良いという合意形成が無ければうまくいかない。そのうえで、FIT 売電することで運営費を賄うことができるという感覚。良い液肥を作って草地を改善していくところまで考えていけるのか。発電量も大きくないので、発電事業ではなく循環事業である。</p>
実行部隊について	<p>組織体について、上位者が出てくるもの。実行部隊をいかに活性化するのが重要。フォーマルな集まり、インフォーマルな集まりがあったとして、その中間の組織が出来れば良い。昼間は真面目に、夜は飲みながら、という緩い関係性をいかに作れるかがポイント。若者を取り込んで企画をさせること、居場所があれば参加してくる。役割を与えることが大切。</p>
計画の今後について	<p>計画は紙切れなので、作った瞬間から古くなる。そのため作った瞬間からリバイスが必要。作ったプロセスが一番熱い。それを実行していただきたい。</p>